

令和5年度第2回物部川清流保全推進協議会幹事会 議事要旨 【確定版】

開催日：令和6年2月19日（月）13:30～15:30

場 所：香美農林合同庁舎1階 大会議室（香美市土佐山田町加茂）

出席者：【幹事】21名（代理出席含む）、【オブザーバー】8名、【事務局】自然共生課3名

1 議事

(1) 令和5年度物部川清流保全推進協議会の取組状況について(報告)

事務局より、資料に基づき説明

(2) 今後の取組の方向性について(協議)

事務局より、資料に基づき説明

意見交換（別紙「議事（1）（2）に対する主な意見」のとおり）

2 その他

情報提供

(1) アユの流下仔魚の状況について

物部川漁業協同組合代表理事組合長 松浦幹事より、当日配付資料に基づき説明

(2) 物部川プラごみ調査&清掃活動第2弾(3月24日開催)について

物部川21世紀の森と水の会代表 岩神幹事より、事業紹介と参加依頼

(3) 環境DNAを用いた新指標調査方法の検討(アユカケの調査)

高知県衛生環境研究所より、当日配付資料に基づき説明

3 資料

資料1 令和5年度物部川清流保全推進協議会 活動実績

資料2 令和5年度総会での決定事項及び今後の対応一覧

資料3 物部川水環境勉強会の概要（協議用たたき台）

資料3-別紙 物部川水環境勉強会を踏まえた今後の取組についての協議

参考資料（参考-1～24）

その他当日配布資料

4 議事結果(今後の取組の方向性等)

(1) 資料1の取組内容について、了承

(2) 資料2の今後の対応等について、異論なし

(3) 資料3で報告した内容について、了承

(4) 資料3をもとに協議した結果、今後は論点①と④についてワーキング等で議論を深めていく方向性とし、論点②などについても幹事会等で情報共有していく

(別紙)

【議事(1)(2)に対する主な意見】

幹事	<p>1. 森林環境の現状と課題について</p> <p>○水環境勉強会の取組を通じて見えてきた課題、共有③森林環境の「列状間伐や高性能機械の導入」について、ある程度は近代化も必要だと思うが、林道・作業道網の建設を前提としている。物部川の奥地はV字型溪谷や急傾斜地が多く、作業道網を付けると山が崩れるリスクが高い。旧来の集材機を改良した方式などによって状況に応じた適切な手法を採用しなければならない。</p>
幹事	<p>○奥山の人工林にもシカが入り込んできているので、伐採後の植林地もしっかりと管理しなければならない。特に良くないのは植生保護管での苗木保護。シカは広葉樹等の稚樹や好みの下草を食べ、林地が多様な植生で守られず、水土保持機能（保水力と土壌を守る力）が損なわれるばかりか、伐採後15～20年も経てば元の木の根株が腐って崩壊・土砂流出が起きる。防鹿柵でシカを排除し、植林苗木を守って森林の再生を図るべく管理していく必要がある。</p>
幹事	<p>○全国的に見てモデル的な、前例がないようなところを香美市がするという話が事務局からあったが、もう一度説明をしてほしい。</p>
事務局	<p>1月に香美市農林課担当者から話を聞かせていただいたところ、香美市森林管理規定整備方針を策定し、令和6年度から林業経営が成り立ちにくい民有林の広葉樹林化を検討・実施していく方向性により、所有者の意向調査を開始予定であるとのこと。溪畔林を含む区域を対象としている。</p> <p>全国調査をしたわけではないので比較は出来ないかも知れないが、県内では他に取り組んでいる自治体はなく、11月の溪畔林保全対策にかかる宮崎大学教授の講演でも日本は世界的に見て立ち後れているという話があった中、香美市の取組は先進的であると考えられ、注目度も高いと思う。</p> <p>3月に公表されると聞いており、いずれは本協議会でも香美市から詳しい説明をいただき、何らかの連携、連動した取組を考えていきたい。</p>
幹事	<p>○森林の機能区分について説明をしてほしい。</p>
幹事	<p>●民有林については、各市町村で市町村森林整備計画を立てており、中でも特に森林の持つ機能別にゾーニングをしている。水源涵養機能が高い森林や土砂流出を防止する森林など、個別或いは重複して指定しているところもあるなど、全ての市町村でゾーニングはされている。</p>
幹事	<p>○香美市がやろうとしていることは、実際に森・川のつながりの中で機能する重要な場所なのか。実態を知るために皆で歩いてみてここが大事だと思える場所と、香美市が言われた場所は若干違うと思う。</p>
事務局	<p>お聞きしている範囲では、溪畔林を含む区域を最優先に、その他災害危険区域を含む区域などを優先して、令和6年度に林地所有者（第5条森林の所有者）の意向調査を行い、何十年ヶ計画で森林調査や植生調査、整備方針や施業計画の作成、施業を行いながら徐々に広げていこうという構想がある。本協議会で溪畔林・河畔林の整備について検討が必要であるという話と、方向性は同じものだと思っている。</p>

幹事長	<p>◎これらについて、「論点①川本来の水源林とは【水源地対策】」のところで議論を深めていくことに了解いただけるのであれば、香美市の取組も見ていきながら本協議会でも議論していく。</p>
幹事	<p>2. ダム管理の現状と課題について</p> <p>○少ない人員体制でダム管理業務をやりくりされていることで、流域全体の水をどうするかという視点が薄いと感じられる。夏場の渇水になる前の時期に、多めに水を貯留しておくなどの弾力的な運用をお願いしたい。 下流の河川者も含めて協議しながら体制を作っていただきたい。</p>
幹事	<p>●おっしゃることはその通りだと思うので、そういったことを含めて色々と検討していく。</p>
幹事	<p>○夏場の渇水時には上限値を1メートル上げて、永瀬ダムの容量面積が増えているはず。ただ、一昨年との差を出してほしいし、一番大事なのは水の上がりだと思うので、農業や漁業への影響もあるので努力してほしい。</p>
幹事	<p>○物部川ほど高度な水利用をしている流域はないので、河川管理者の方には、弾力的運用を含め、流域利水の視点をお願いしたい。使う側の努力はお互い融通してやっているはずなので、流域全体でどういう形で水を貯めて弾力的にやっていくかについて幹事会や総会で報告していただきたい。</p>
幹事	<p>●冬場の渇水については永瀬ダムを含めて取組をしており、夏場の渇水については色々大変で悩みながら取り組んでいこうとしている。洪水になると人の命に関わるため、そのことと両天秤をかけながら工夫や努力、どうやってやるかについて整理をしているところ。この問題はすぐに解決するとは思っていないので、今後も一緒に考えながら進めていくことが大事だと思っている。</p>
幹事	<p>○農機具なども今はAIにより、稲作では耕運作業、田植え、稲刈りも自動的に行うところまで進んでいる。ダム関係の貯水の計算なども進んでいると思うので、技術関連も勉強していただきたい。</p>
幹事	<p>○前々から思っていることは、ダムの解消を考え森を育てていくまでの当面の間は水の有効利用を図ることが一番大切だということ。可能な限り、渇水調整会議の情報などをこういった場でも公にし、課題を整理しながら優先順位をつけて進めていくことが大切。</p>
幹事長	<p>◎これらについて、「論点②河川維持流量及び水利流量の調整【水開発】」の部分だと思うので、幹事会等で情報共有をさせていただきながら議論していく方向で整理したい。</p>
幹事	<p>3. 林業に関する濁水対策について</p> <p>○山で作業道を作って木材を出す過程で流れる泥が、濁水の原因になっている。木を伐採した急斜面で一雨降ったら、その道から泥が流れ出てくる。一昨年の三宝山の開発では山の上から烏川に土石流が流れ込み、決壊していた。その場所を一年後に見たところ烏川の土手に亀裂が入りえぐられていたため、県の土木事務所に見に来ていただき今ようやく工事を始める段階にある。</p>

幹事	作業道は必要だが、濁水対策の工夫をしてほしい。
幹事	●雨水というのは集まってしまうと川のように流れ、作業道を削り土砂流出を招いてしまうため、できる限りこまめに排水を取り分散して、山の方に水を戻す形で開設するよう、県として事業体をお願いしている。また、県では作業道作成指針により、山の切り取りの高さを最小限に抑えることや、道の開設の注意点などを事業体をお願いしているところ。全く無秩序に開設しているわけではないため、ご了承承願いたい。
幹事	○三宝山の事態は現場確認の不十分も要因だと思われるため、確認行為はしっかりとしていただきたい。
幹事長	◎そこの部分についても「論点④川本来の水とは【濁水対策】」や森林整備事業などで議論を深めていければと思う。
幹事	4. 物部川改修期成同盟会の活動について ○土地改良区や漁協等の意向を踏まえて物部川改修期成同盟会をお願いしていた国への要望について、情報を持っている方がいれば説明していただきたい。
幹事	●3市では組長及び本日の出席者とは別の建設分野の課長、県は河川課と一緒に行ってた。濁水対策の抜本的な解決は、3ダムを再編し、そもそもの物部川の流れから変えて土砂を上流から下流、海まで流していく必要がある。そのためには、河川法上必要な河川整備計画方針の改定に始まり、手続きを行ったうえで総合土砂管理を行っていく手順となることから、どうしても国の力が必要となってくる。そこで、国の水管理・国土保全局の局長及び国土交通大臣政務官になられた尾崎先生を訪問、お力添えをお願いし、ぜひやらなければならぬ、という力強いお言葉をいただいて帰ってきた。この活動の時には、山田堰井筋土地改良区の女性部からも代表者にお越しいただき、濁水問題について色々とお話しいただいて、より説得力が増し理解が深まったと考える。